

# 岡山県感染症週報 2013 年 第 18 週 (4 月 29 日～5 月 5 日)

◎岡山県では『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2013 年 第 18 週 (4/29～5/5) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第 16 週 5 類感染症 風しん 1 名 (20 代 女)  
 第 17 週 2 類感染症 結核 3 名 (30 代 女 1 名、60 代 男 1 名、80 代 女 1 名)  
 5 類感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病 1 名 (70 代 女)  
 侵襲性肺炎球菌感染症 3 名 (20 代 女 1 名、70 代 男 1 名、80 代 男 1 名)  
 第 18 週 2 類感染症 結核 1 名 (30 代 男)  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 20 代 男)  
 5 類感染症 風しん 2 名 (30 代 男)

### ■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、203 名 (定点あたり 2.35 → 2.42 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。  
 ○感染性胃腸炎は、636 名 (定点あたり 12.02 → 11.78 人) の報告があり、前週よりやや減少しました。

### 【第 19 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 1 施設ありました。(5 月 7 日)

- インフルエンザ**は、県全体で 203 名 (定点あたり 2.42 人) の報告があり、前週 (2.35 人) よりわずかに増加しました。まだしばらくはインフルエンザの流行がつづくと思われ、岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。  
 全国の第 17 週 (4/22～4/28) の集計によると、定点あたり 3.07 人であり、前週 (2.89 人) より増加しました。都道府県別では、長崎県 (7.50 人)、宮崎県 (7.47 人)、石川県 (7.38 人) の順に多く、27 都道府県で前週の報告数より増加しました。
- 感染性胃腸炎**は、636 名 (定点あたり 12.02 → 11.78 人) の報告があり、前週よりやや減少しましたが、過去 10 年の同時期と比較すると、最も患者数が多い状態で推移しています。  
 県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 風しん**は第 16 週に 1 名、第 18 週に 2 名の発生がありました。岡山県では今年の第 1～18 週までの報告累計が 22 名となり、増加が続いています。  
 全国では関東地方、近畿地方を中心に昨年を上回る大きな流行になっています。2013 年の 1～17 週までの累計報告数は 5,442 人となり、第 14 週以降は、全国の 1 週間あたりの患者発生数が 500 人を越える週がつづくなど、これまでにない規模で患者が急増しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症**は、1 名の報告があり、今年は第 18 週までに 8 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、5 月頃から患者が増加する傾向がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

### 【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法施行規則の改正が行われました。(平成 25 年 4 月 26 日)

鳥インフルエンザ (H7N9) が感染症法上の指定感染症になりました。  
 この改正により、鳥インフルエンザ (H5N1) と同様に入院措置や検疫対応が可能となり、国内で患者が発生した場合に、より万全の対応をとることができるようになりました。

(平成 25 年 5 月 6 日施行)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少      : 1.1~2 倍未満の減少      : 1.1 未満の増減

: 1.1~2 倍未満の増加      : 2 倍以上の増加  
発生状況: 空白: 発生なし    ★: 僅か    ★★: 少し    ★★★: やや多い    ★★★★: 多い    ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 18 週 (4 月 29 日 ~ 5 月 5 日)

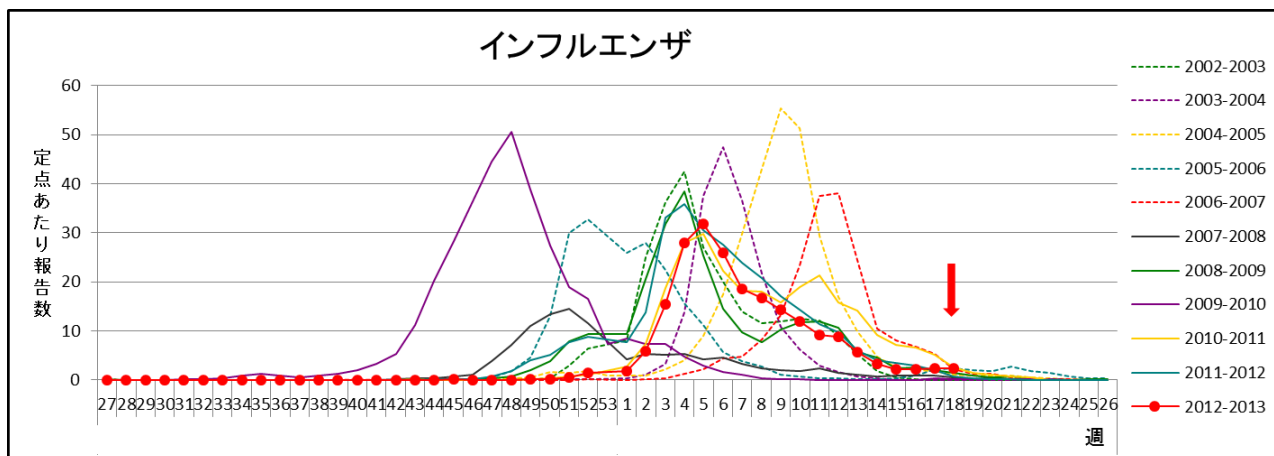
**岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です**

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、203 名（定点あたり 2.35 → 2.42 人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 19 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、玉野市（5 月 7 日）の小学校 1 校でありました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

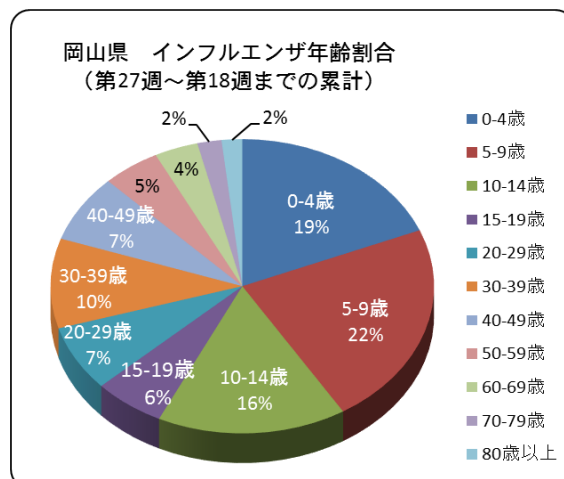
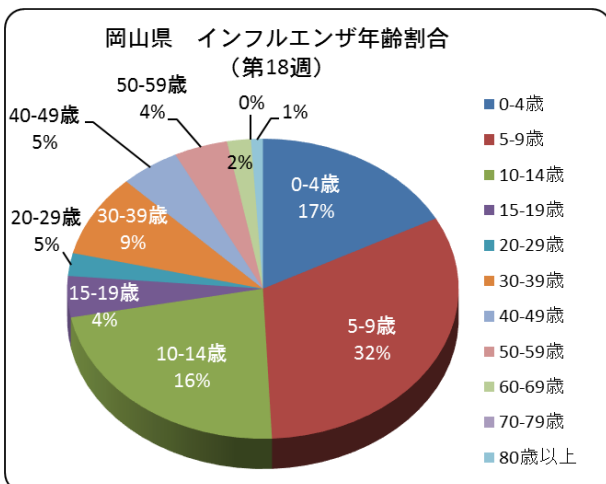
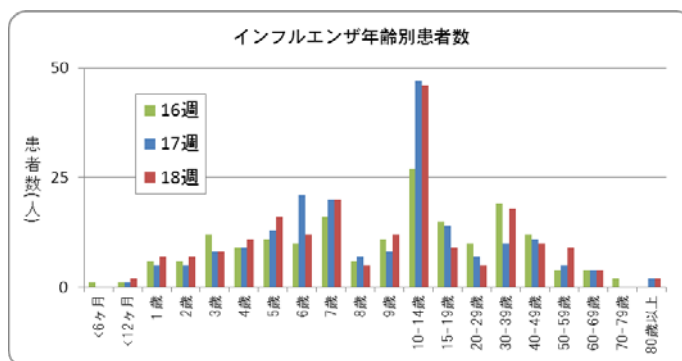
インフルエンザは、203 名（定点あたり 2.35 → 2.42 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週よりわずかに増加しました。小学校で、インフルエンザとみられる学級閉鎖も発生しており、流行はまだしばらくつづくと思われます。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を凶っています。手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

1. 年齢別発生状況

インフルエンザ患者の年齢割合は、5-9 歳が 32%、0-4 歳が 17%、10-14 歳が 16% の順で、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層が患者の 65% を占めています。

第 17 週に続き、学校の臨時休業も報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。

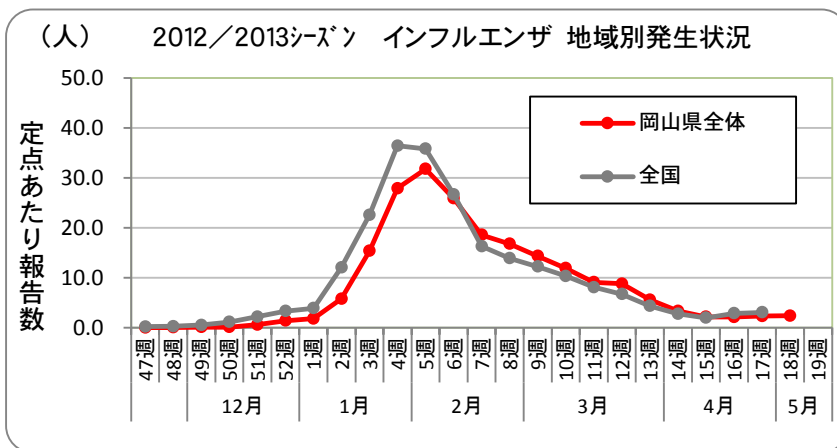


## 2. 地域別発生状況

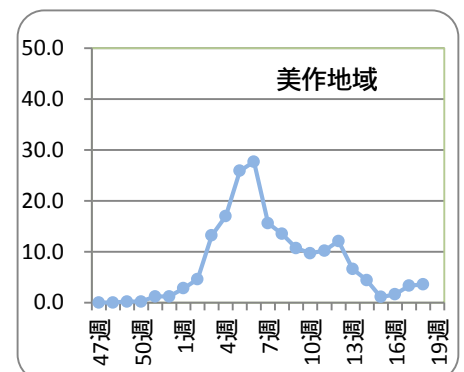
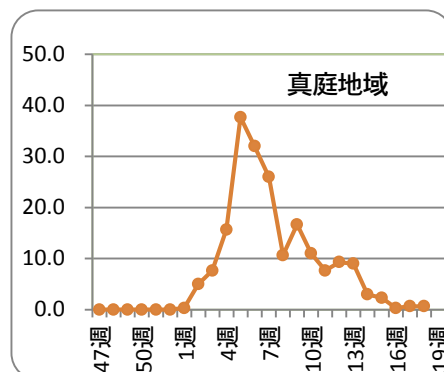
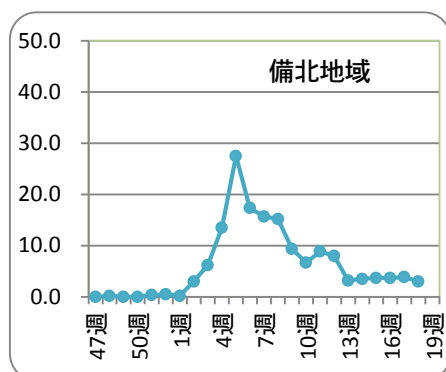
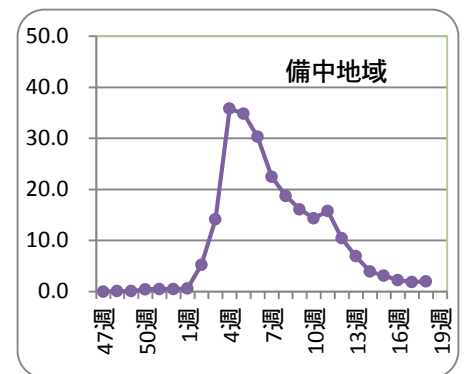
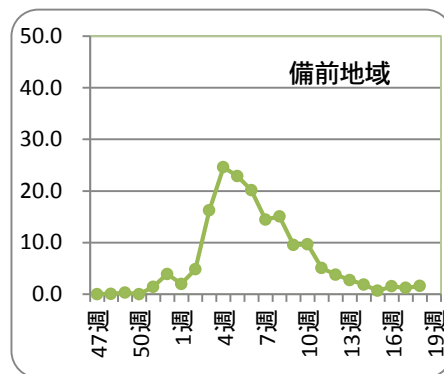
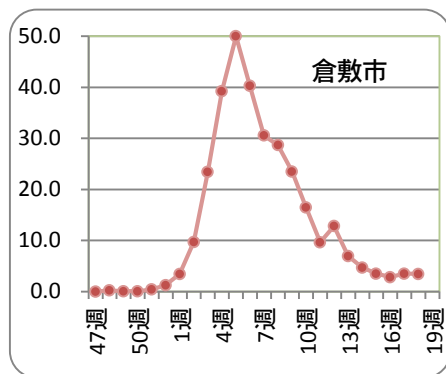
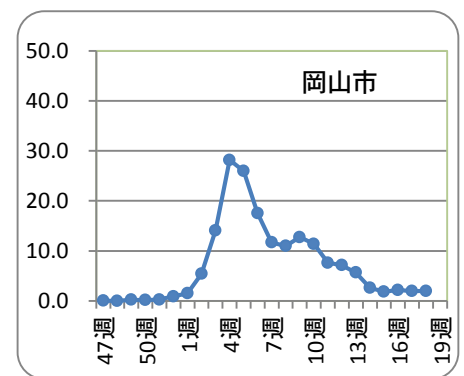
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	203	➡	備 中	患者数	24	➡
	定点あたり	2.42			定点あたり	2.00	
岡山市	患者数	44	➡	備 北	患者数	18	➡
	定点あたり	2.00			定点あたり	3.00	
倉敷市	患者数	55	➡	真 庭	患者数	2	➡
	定点あたり	3.44			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	24	➡	美 作	患者数	36	➡
	定点あたり	1.60			定点あたり	3.60	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡  
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第17週(4/22～4/28)の定点あたり患者数は3.07人となり、前週(2.89人)よりも増加しました。都道府県別では長崎県(7.50人)、宮崎県(7.47人)、石川県(7.38人)の順に多く、27都道府県で前週の報告数より増加しました。

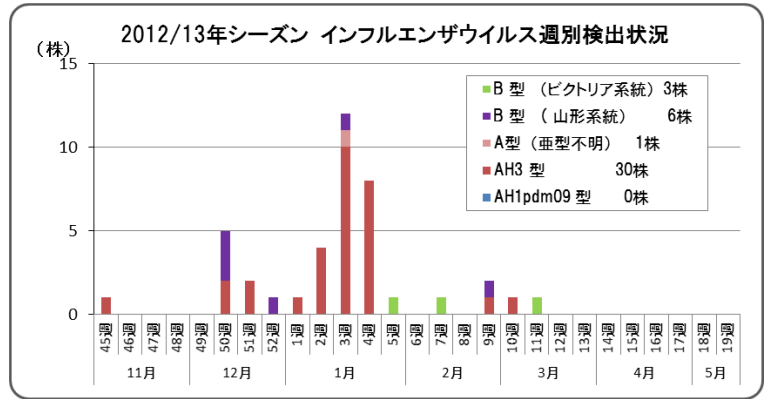


### 3. インフルエンザウイルス検出状況

第18週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が6株、B型（ビクトリア系統）が3株です。

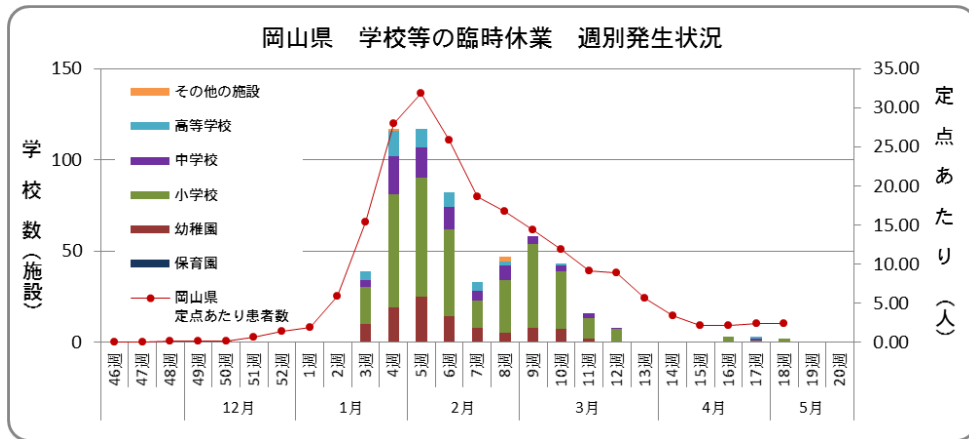
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く81%、B型が17%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症研究所 感染症疫学センター）](#)



### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。



#### ◆第18週 臨時休業施設数

##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第18週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	16	7859	16	5809	2	570	0	22	0	182	2	366	H 24. 11. 6
岡山市	0	2922	0	2117	0	186	0	2	0	30	0	154	H24. 11. 6
倉敷市	0	1791	0	1288	0	109	0	1	0	15	0	93	H25. 1. 15
備前地域	7	890	7	679	1	82	0	4	0	36	1	42	H25. 1. 15
備中地域	0	1109	0	895	0	92	0	6	0	42	0	44	H24. 12. 12
備北地域	0	310	0	238	0	32	0	3	0	23	0	6	H25. 1. 21
真庭地域	0	128	0	90	0	12	0	1	0	9	0	2	H25. 1. 21
美作地域	9	709	9	502	1	57	0	5	0	27	1	25	H25. 1. 15

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第18週：2施設

累計：570施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	98	2	342	0	79	0	47	0	4

◆ **インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。**

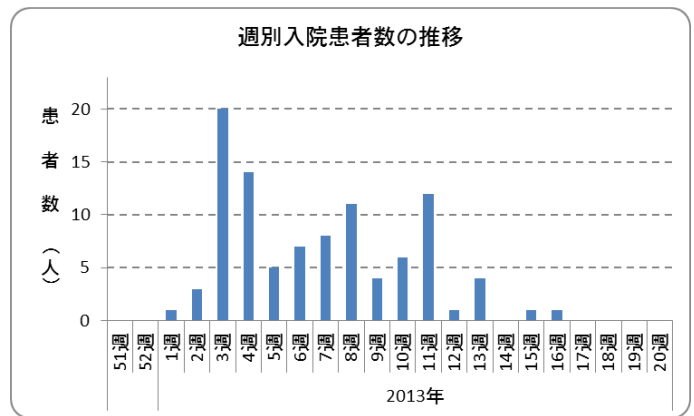
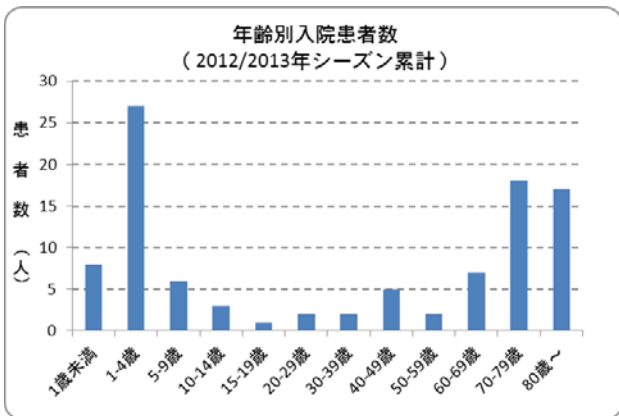
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. **インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）**

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



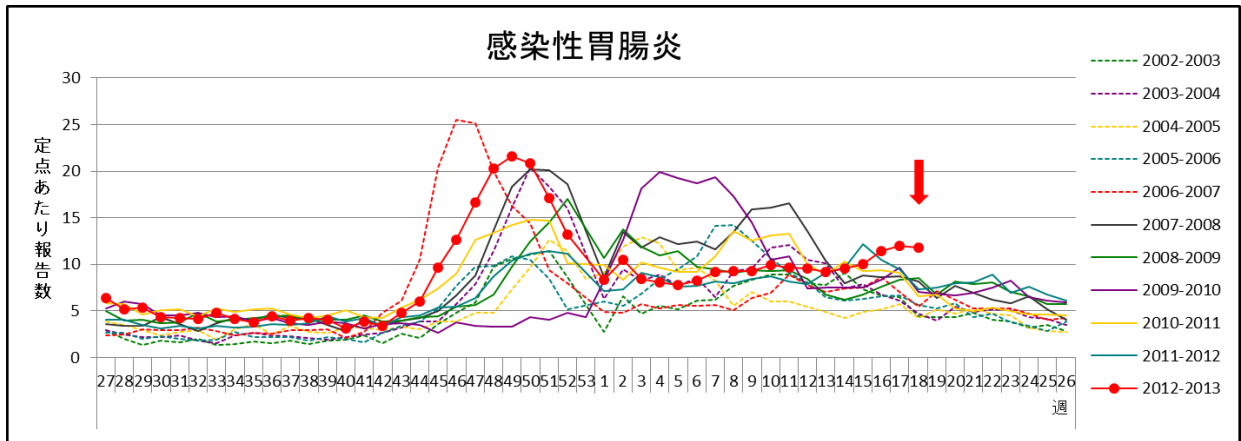
【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
<b>入院患者数</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>18</b>	<b>17</b>	<b>98</b>
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部 MRI 検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	17	78

\*重複あり

## 感染性胃腸炎情報 2013 年 第 18 週 (4 月 29 日 ~ 5 月 5 日)

○岡山県内の患者報告数は 636 名 (定点あたり 12.02 →11.78 人) であり、前週よりやや減少しました。



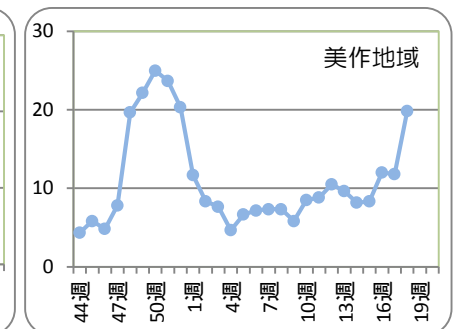
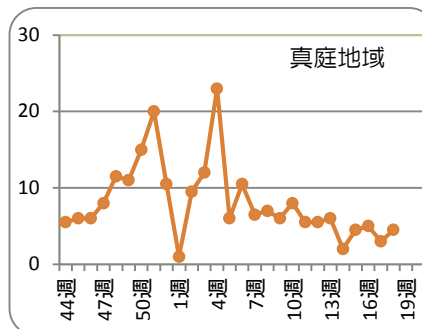
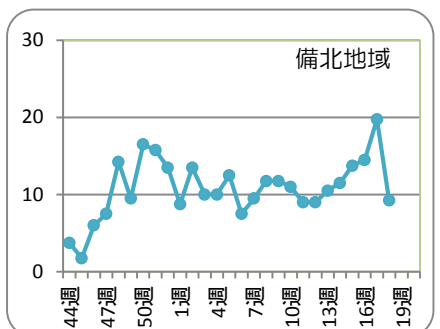
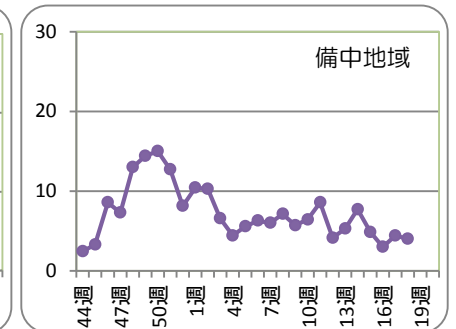
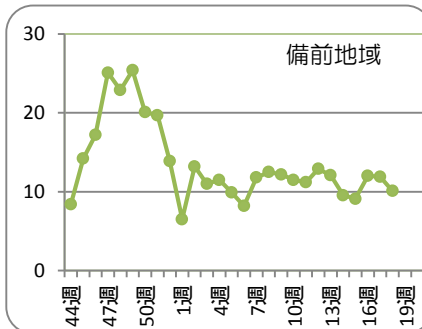
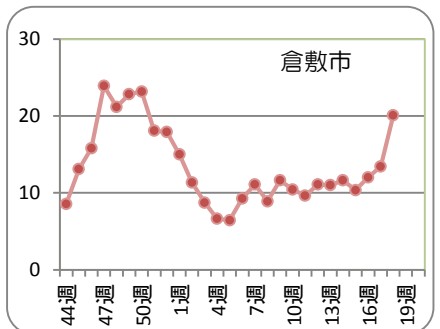
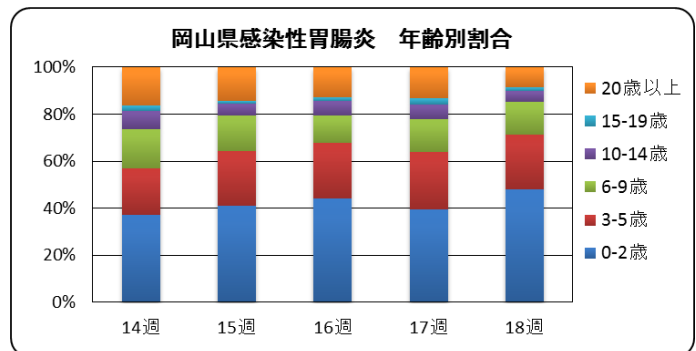
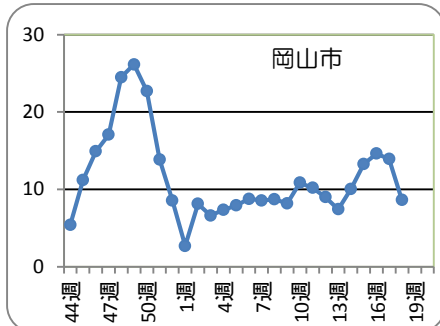
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

**感染性胃腸炎**は、636 名 (定点あたり 12.02 →11.78 人) の報告があり(54 定点医療機関報告)、前週よりやや減少しましたが、過去 10 年の同時期と比較すると、最も患者数が多い状態で推移しています。地域別では、倉敷市 (20.09 人)、美作地域 (19.83 人)、備前地域 (10.10 人) の順で定点あたり患者数が多くなっており、倉敷市では定点あたり 20 人を超え、レベル 3 になりました。

年齢別では、0~2 歳が全体の 48% を占め、この年齢層の割合が、多くを占めています。

また例年 3~5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0~2 歳の乳幼児を中心に増加するとされていますので、注意が必要です。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理など感染予防と拡大防止に努めてください。

### ◆地域別・年齢別発生状況(定点あたり数)



保健所別報告患者数 2013年 18週 (2013/04/29～2013/05/05)

2013年5月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	203	2.42	44	2.00	55	3.44	24	1.60	24	2.00	18	3.00	2	0.67	36	3.60
RSウイルス感染症	5	0.09	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	14	0.26	4	0.29	1	0.09	1	0.10	4	0.57	1	0.25	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	0.63	23	1.64	6	0.55	1	0.10	1	0.14	2	0.50	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	636	11.78	121	8.64	221	20.09	101	10.10	28	4.00	37	9.25	9	4.50	119	19.83
水痘	46	0.85	7	0.50	13	1.18	14	1.40	-	-	4	1.00	-	-	8	1.33
手足口病	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	10	0.19	5	0.36	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)



保健所別報告患者数 2013年 18週 (2013/04/29～2013/05/05)

2013年5月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	203	2.42	44	2.00	55	3.44	24	1.60	24	2.00	18	3.00	2	0.67	36	3.60
咽頭結膜熱	14	0.26	4	0.29	1	0.09	1	0.10	4	0.57	1	0.25	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	0.63	23	1.64	6	0.55	1	0.10	1	0.14	2	0.50	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	636	11.78	121	8.64	221	20.09	101	10.10	28	4.00	37	9.25	9	4.50	119	19.83
水痘	46	0.85	7	0.50	13	1.18	14	1.40	-	-	4	1.00	-	-	8	1.33
手足口病	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。  
 今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2013年 第18週 2013/04/29～2013/05/05 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	203	-	2	7	7	8	11	16	12	20	5	12	46	9	5	18	10	9	4	-	2

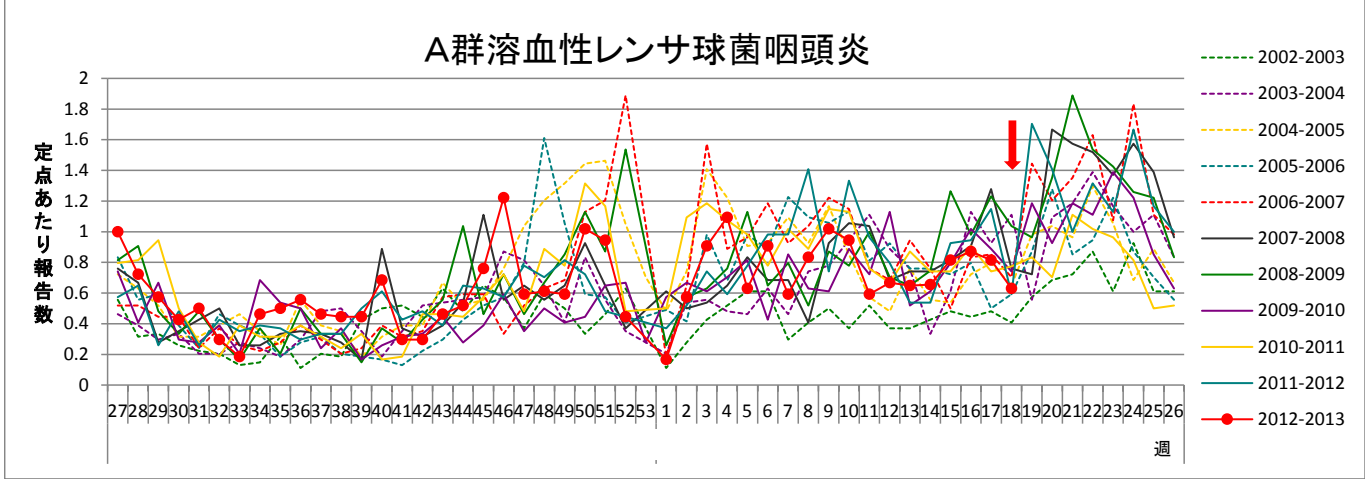
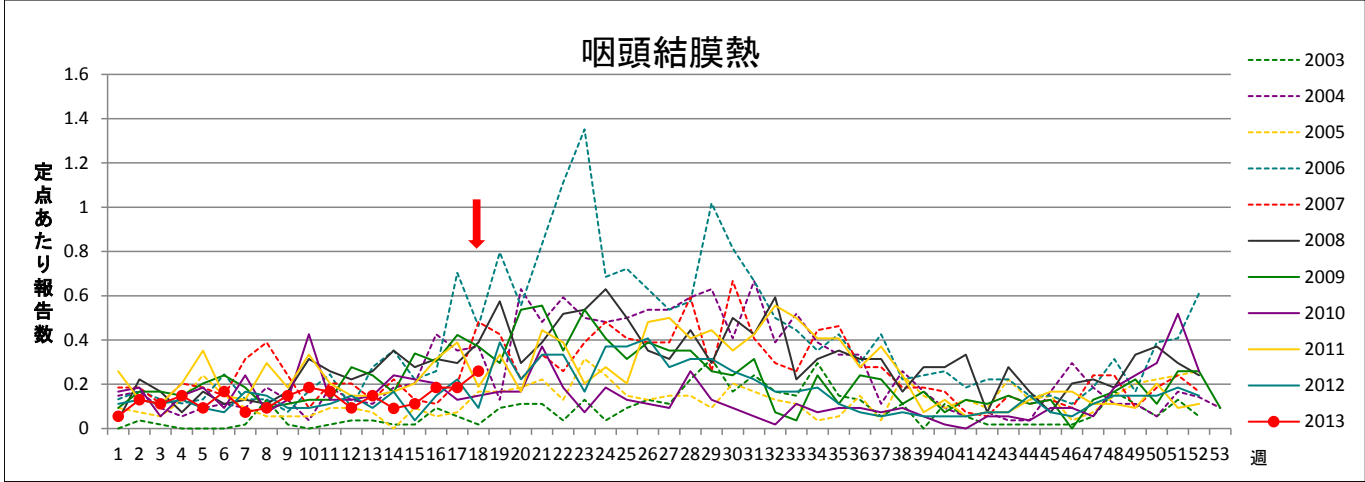
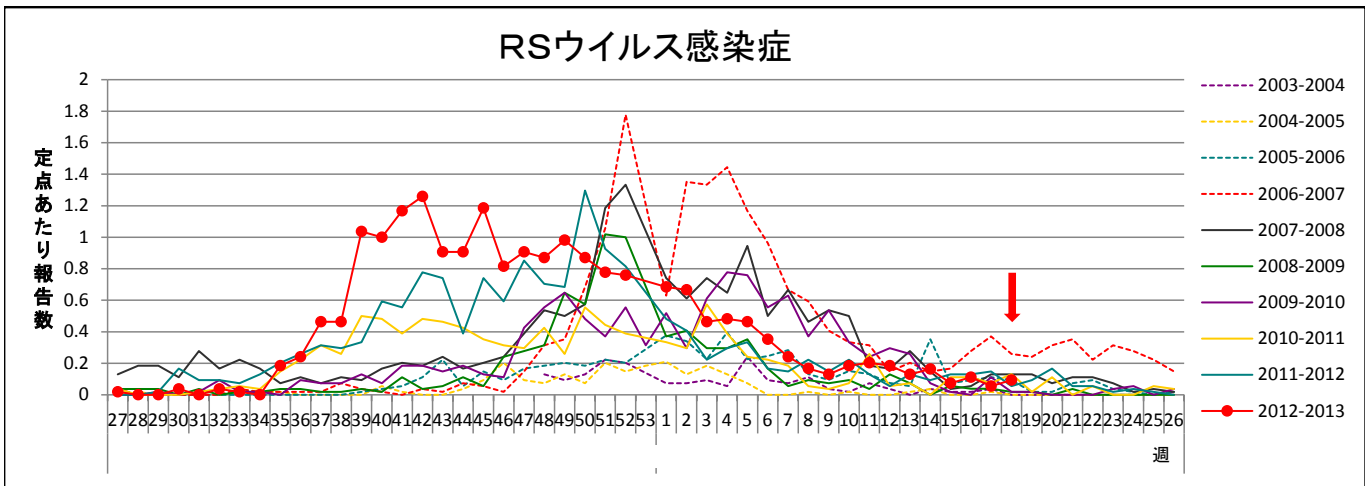
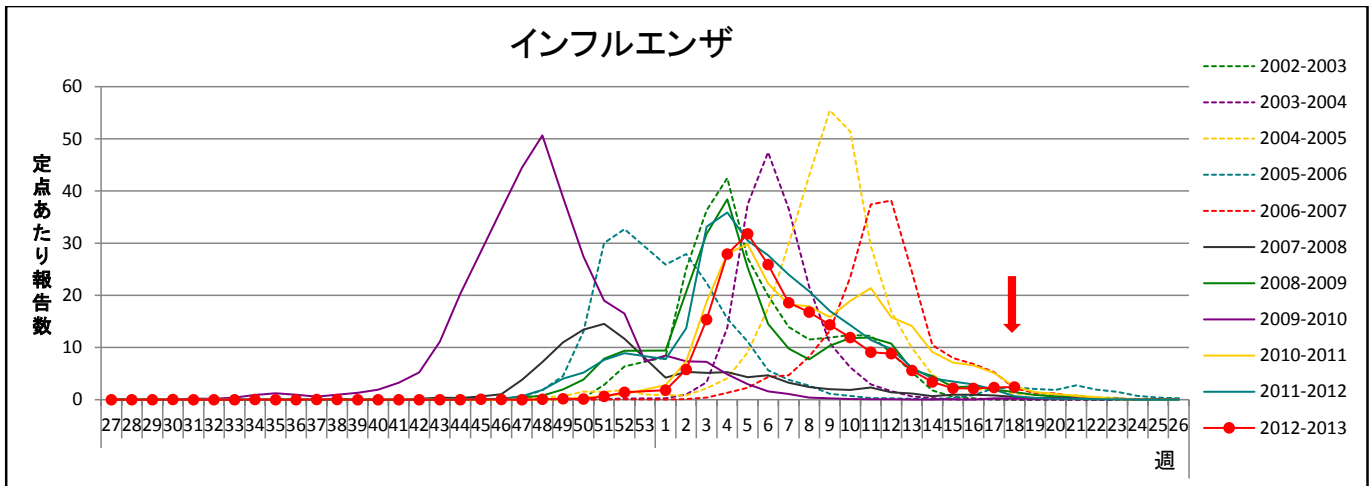
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	5	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	-	5	2	2	-	1	3	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	2	-	3	3	2	4	2	6	-	4	3	3	-	2
感染性胃腸炎	636	8	71	140	87	60	46	40	26	29	15	19	30	9	56
水痘	46	-	3	7	15	6	6	4	4	-	-	1	-	-	-
手足口病	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	10	2	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

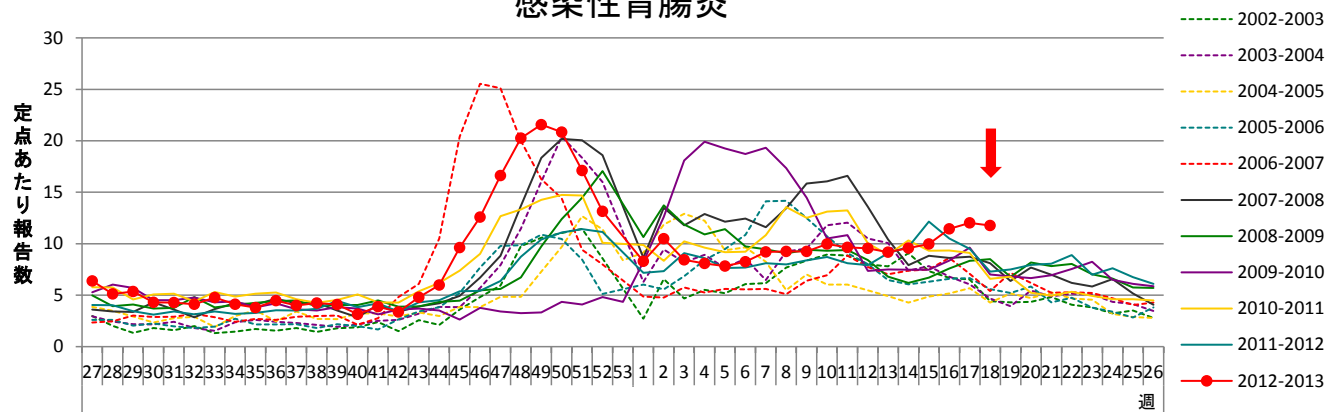
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

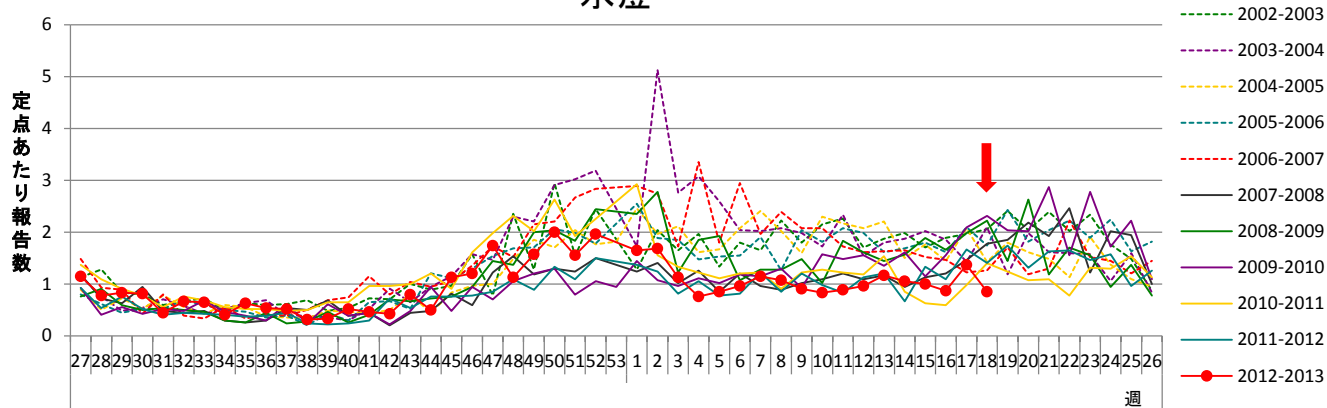




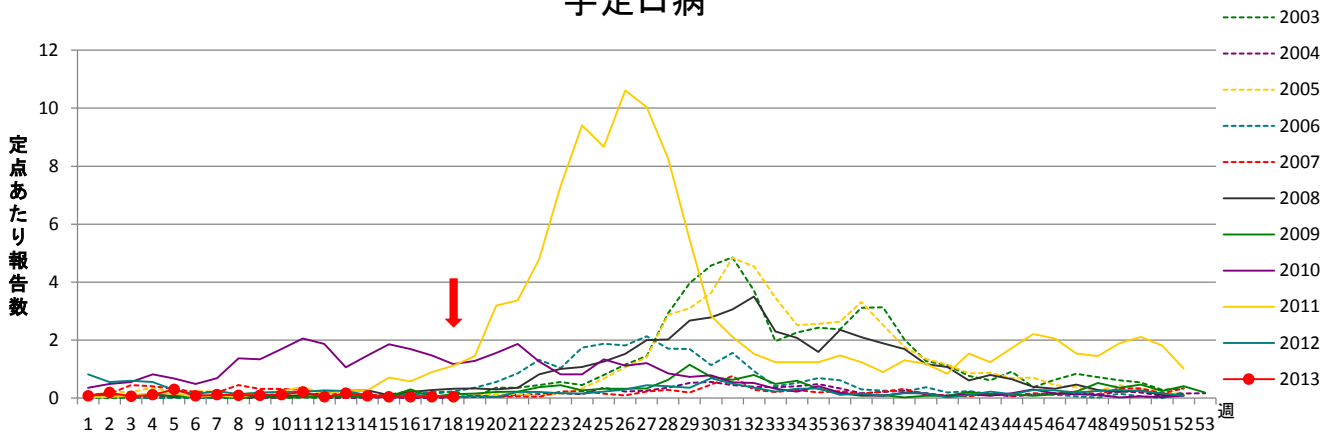
### 感染性胃腸炎



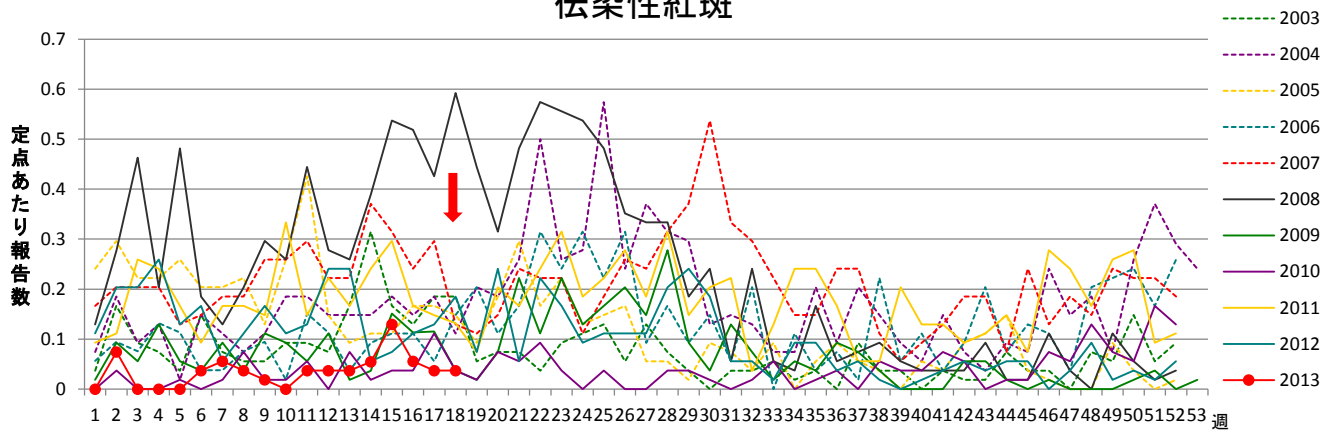
### 水痘



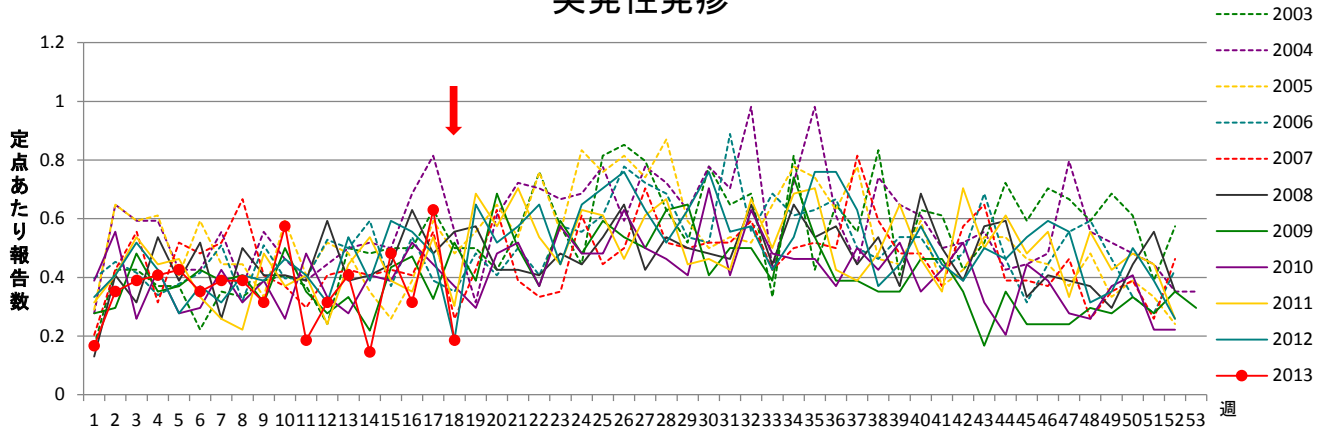
### 手足口病



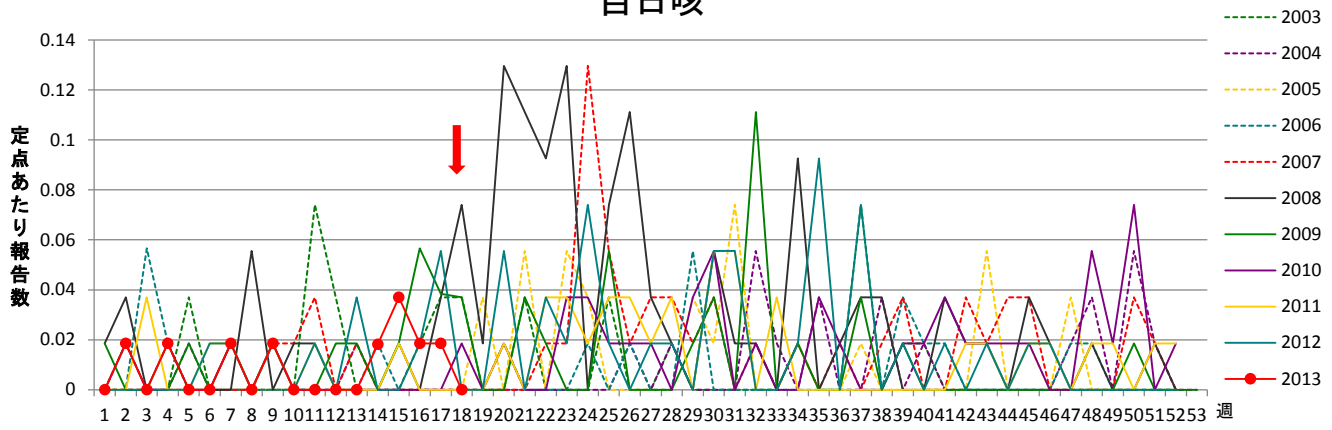
### 伝染性紅斑



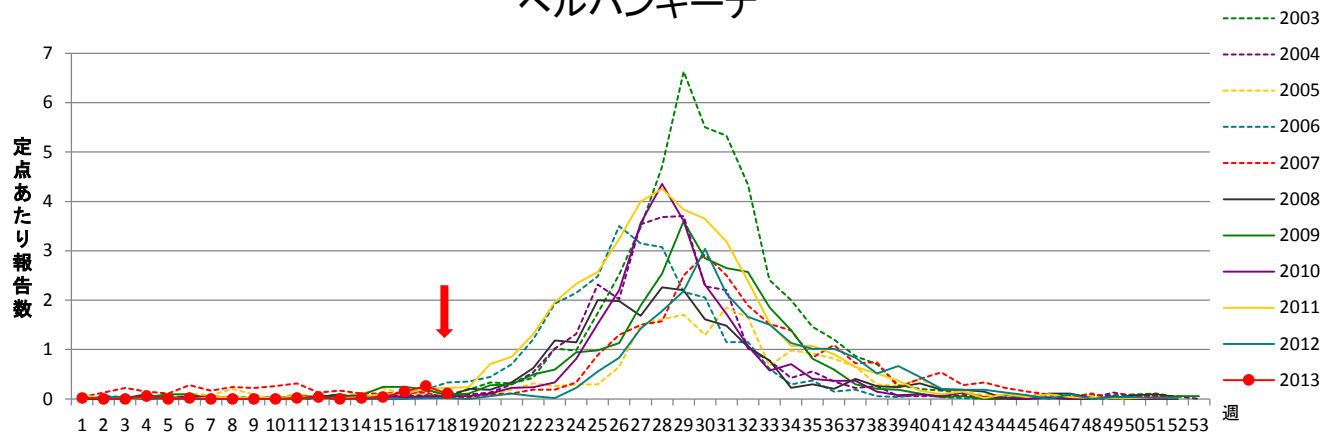
### 突発性発疹



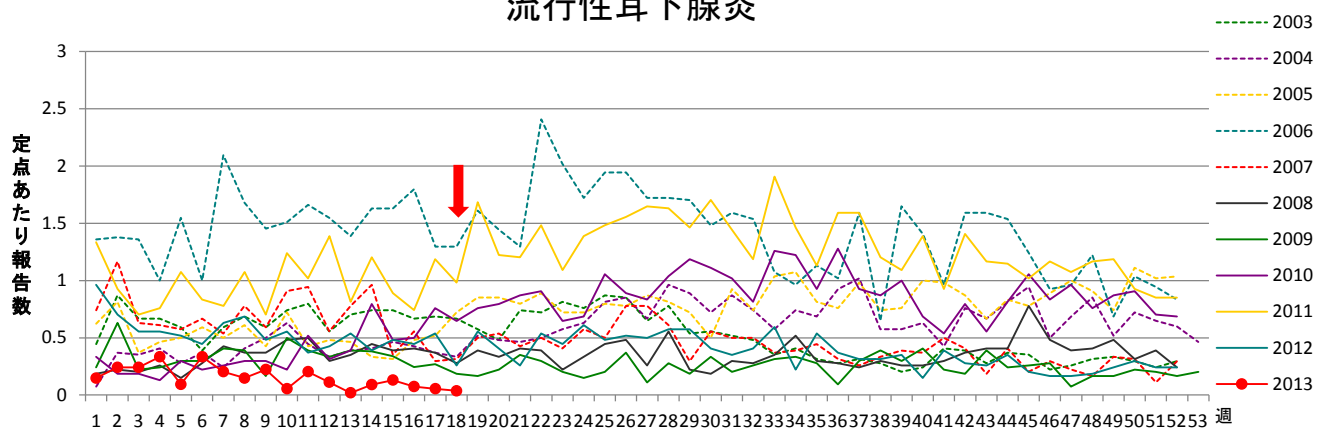
### 百日咳



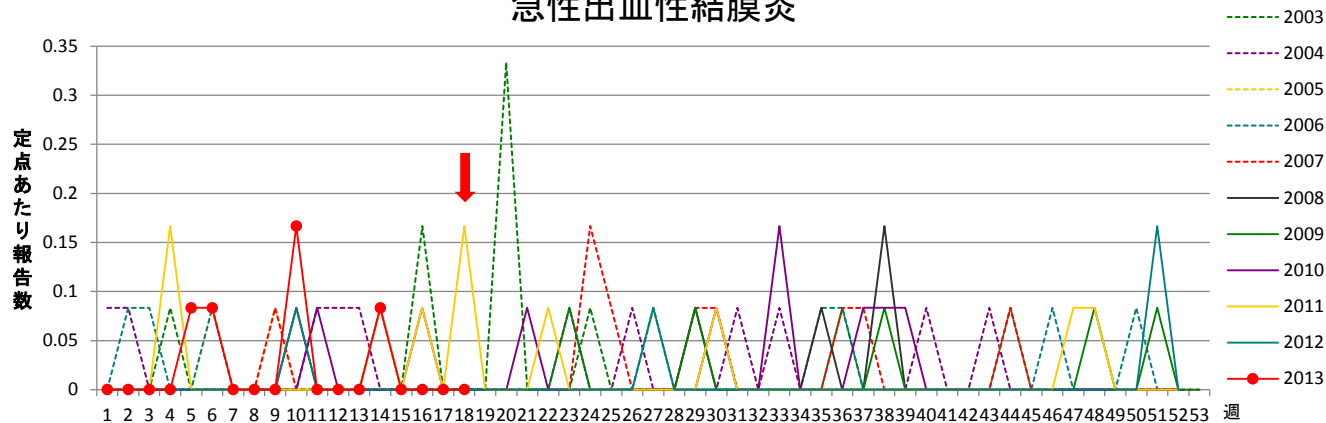
### ヘルパンギーナ



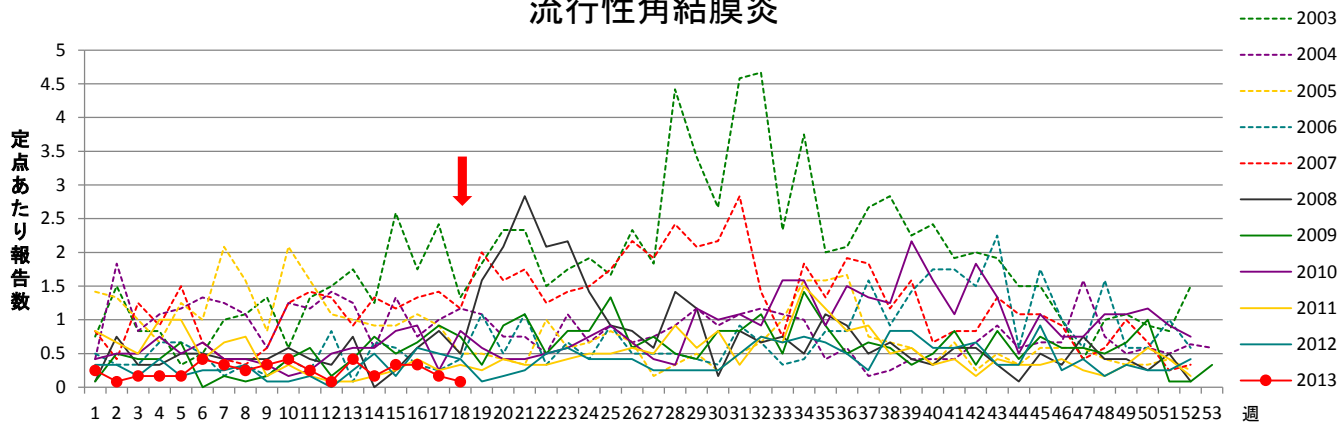
### 流行性耳下腺炎



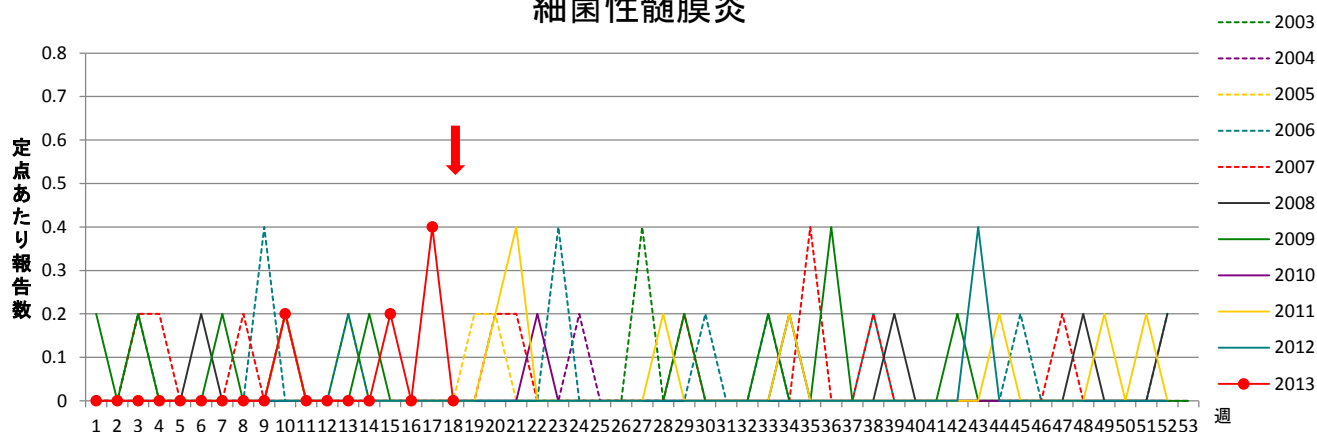
### 急性出血性結膜炎



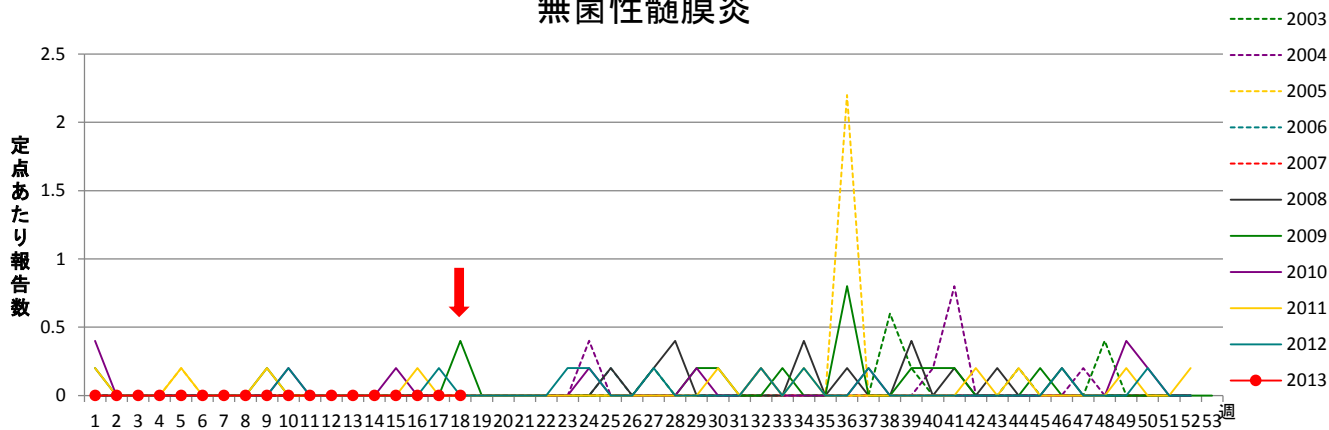
### 流行性角結膜炎



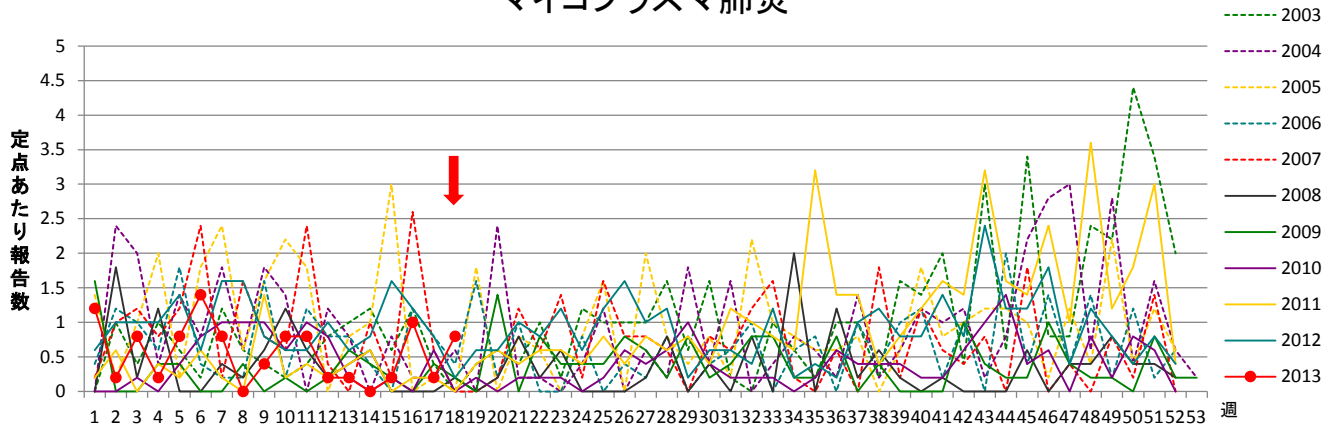
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎

